



学校だより

横浜市立洋光台第一小学校

www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/yokodai1/

平成28年度



もっと学習したい子が集まります

校長 青木 圭介

足踏み気味だった今年の秋も、ようやく深まってきました。例年、見事な紅葉を見せる校庭のサクラが、今年は慌ただしく葉を落としているように感じます。

10月は、横浜市体育大会(6年)、小中合唱交流(6年)、洋光台音楽の集い(3年)、根岸森林公園遠足(低学年)、心のふれあいコンサート(5年)、工作教室(キッズ・PTA)など、スポーツと文化に親しむこの季節ならではの行事が続きました。11月も、土曜参観、洋一ショー、鎌倉見学(6年)、上郷宿泊体験学習(4年)、磯子区児童音楽会(3年)などが予定され、子どもたちは楽しみにしています。

さて、この写真は「読み名人教室」の様子です。給食の待ち時間、当番以外のたくさん子どもたちが、多目的室などに集まって、学習しています。日常の授業を進める中で、拗音や促音、長音など特殊音節の読み書きが苦手な子どもたちが見られるため、その子ども達への学習支援を目的としています。ただし、参加は任意。支援ニーズに関わらず学習したい子が大勢集まって、学習に取り組んでいます。



【特殊音節】

拗音：「キャ」「キュ」
など、小さい「ャ」「ュ」
「ヨ」などが付く音
促音：「ラッパ」など、
「ッ」が付くつまる音
長音：長く伸ばした音

本校では、「支援を必要としているのはすべての子ども」であるという考えを基本に、一人ひとりの教育的支援ニーズを捉え、そのニーズに適切に応える支援教育を進めています。通常の授業の中で、支援教育の視点に立った一人ひとりの児童がわかる授業づくりをめざすとともに、さまざまな支援の場を工夫しています。その中で、取り出し指導を行う「第2学習ルーム」の取り組みについては、これまでもお伝えしてまいりました。現在、約20名の子どもたちが、2名の非常勤講師とともに、自分のペースで落ち着いて学習に取り組んでいます。

今回ご紹介した「給食の待ち時間を活用した学習支援」は、教職員のアイディアで、基礎学力の定着をはかる手立ての一つとして数年前から始まりました。昨年までは、算数の基本的な計算力の定着をめざして「算数教室」を行いました。(本年度も実施予定)。

これらの学習の場に参加する時、特に大切にしていることは、「もっと学習したい」「もっとわかるようになりたい」という子ども自身の意欲です。決して「できないから」参加するものではありません。学級から送り出す担任も、このことを大切に声をかけています。子どもたちのやる気を高め、それぞれに応じた支援体制をこれからも工夫していきたいと考えています。